

しみの掲示板

市内で活動する団体の催しや
会員募集などを掲載しています。

問合せ 秘書広報課
Tel 870・0403 Fax 872・2291

●やさしいヨガ教室(初心者向け)

日時 8月10日(月)、24日(月)、31日(月)午後
2時～3時、7時15分～8時15分

場所 いいもりぷらざ 費用 各800円

申込・問合せ 電話かLINEで野々

LINE ID @604vnxfp

Tel 070・1772・5858

●Kenny&Kazuライブ

ライブとマジックショー

日時 8月30日(日)午後2時30分

場所 文化情報センター

問合せ 野村

Tel 090・2197・1174



●野崎徳洲会病院 病院祭

医療機器体験、看護師体験、子ども用
ブースなど

日時 9月6日(日)午前10時～午後1時

場所 サークルホール

問合せ 野崎徳洲会病院 Tel 874・5423

●ミニバス新メンバー募集

日時 毎週木・金曜日午後6時～8時30
分、毎週土曜日午前9時～正午

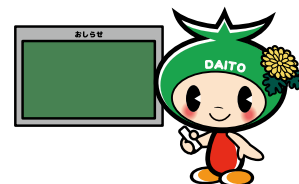
場所 泉小学校体育館 対象 男子:小
学4年生以上、女子:小学1年生以上

費用 月2千円

申込 メール

rikuumekawa@docomo.ne.jp

問合せ 梅川 Tel 080・8538・0449



金額の記載がないものは無料。申込の記載
がないものは申込不要。詳しくは各問合わせ
先へご確認ください。

掲載記事を募集しています

原稿の締め切り日

10月号:8月18日

11月号:9月16日

詳細は
こちら



ダイトンをさがせ!

答え合わせ と 今月のプレゼント

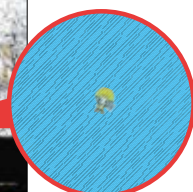
正解者の中から抽選で

4人にプレゼントが当たります!

7月号の隠れ場所



傘にダイトンが隠
れているよ



8月号のプレゼント

締め切り 8月25日まで

※消印有効

育脳教室 脳make提供

教材本「賢くなるパズル」

入門シリーズ 図形・やさしい



5年前
教室の様子



現在

育脳教室 脳make

谷川2-7-46

Tel 090・5647・2560



はがきの場合は住所、氏名、年齢、ダイトンが隠れている場所、広報誌の感想や広報誌に
取り上げてほしいテーマなどを書いて〒574-8555 秘書広報課まで

※応募は1人1通。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



応募は
こちら!

事業者を
募集しています!

正解者プレゼントを提供いただける事業者を募集しています!

申込・問合せ 秘書広報課 Tel 870・0403

詳しくは
ホームページへ





お知らせ

催し

スポーツ

募集

健康

子育て

掲示板

人権のひろば

vol.316

外国籍の子どもへの支援

近年、社会のグローバル化や人の往来的変化に伴い、学校に通う外国籍の子どもは年々増加しています。令和6年には、全国の公立学校に在籍する外国籍の児童生徒は13万人に達し、10年間で約2倍に増加しました(下表)。こうした変化の中で、学校には学びの場としてだけでなく、多様な文化や価値観が出会い、共に育つ場としての役割がこれまで以上に求められています。

個性に寄り添ったサポート

学校現場では、日本語教育や母国語が話せる支援員の派遣、ICTの活用などを通じて、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう支援を行っています。令和5年時点では全国で約7万人の児童生徒が日本語指導を必要としており(※)、その背景には、渡日の時期や理由、家庭環境、これまでの学習経験など、一人ひとり異なる事情があります。

そのため、市の学校現場では、支援

「人権のひろば」に対する「意見」感想は秘書広報課または人権室までお寄せください。

にあたり「日本語がどれだけ話せるか」だけを見るのではなく、その子が持つ力を丁寧に見極めることを大切に行っています。文部科学省の「ことばの発達と習得のものさし」や「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント(DLE)」などを活用し、日本語の力に加え、母語による表現力や思考力、判断力などを総合的に捉えながら、一人ひとりに応じた支援につなげていきます。

共に学び、共に育つ学校へ

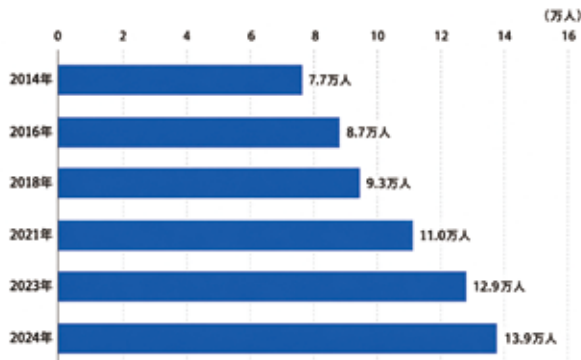
私たちは時に、渡日して間もない子どもや、日本語の習得途中にある子どもを「困っている子」と捉えてしまいがちです。しかし見方を変えれば、その子どもたちは二つ以上の言語や文化に触れながら育つ可能性を持った存在でもあります。子どもたちが育んでいるのは、日本語だけではなく、母語も含めた言葉の力、異なる文化を行き来する力、人とながかる力です。

そして、それは外国籍の子どもたちだけの学びではありません。同じ教室で過ごす子どもたちにとって

も、多様な言語や文化、価値観に触れる経験は、互いを理解し尊重する姿勢を育てる機会になります。多文化共生とは、誰かを支援することだけではなく、違いを認め合いながら共に学び、共に育つことなのかもしれません。

※出典:「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(文部科学省)

公立学校に在籍する外国籍児童生徒数の推移
出典:「学校基本調査」(文部科学省)を基に市が作成



広報誌に広告を出しませんか?

☑ 約5万4千部の発行

毎月、市内全域幅広い年齢層に安定して届けられます。

☑ 広報誌というブランド

市が発行する信頼性の高い情報媒体。掲載広告は事前審査を行っています。

☑ 大東市民に向けて直接PRできる

サービスを利用できる可能性が高い層に限定して届けられます。



広告料金、掲載の手続きなど詳しくは大光宣伝株式会社(0120・540・888)までお問い合わせください。